

第4回 桐生市総合戦略推進委員会 議事録

1. 日 時 平成27年12月11日（金）午後6時30分～午後8時まで

2. 場 所 桐生市役所 6階 605会議室

3. 出席者

【委員】	委 員 長：	桐生市総合計画審議会会長職経験者	宝田 恭之
	副委員長：	桐生商工会議所 会頭	山口 正夫
	委 員：	桐生商店連盟協同組合 副理事長	茂木 理亨
		新田みどり農業協同組合 副組合長	藤生 英喜
		桐生広域森林組合 総括課長	栗原 和人
		群馬県桐生みどり振興局 局長	飯島 泉
		桐生商業高等学校 教諭 進路指導主事	北風 久子
		桐生信用金庫 常務理事	横倉 浩治
		足利銀行 桐生支店長	松村 貢
		群馬銀行 桐生支店長	横山 勝則
		桐生公共職業安定所 所長	橋本 真実
		桐生タイムス 事業推進室長	小澤 義明
		桐生市区長連絡協議会 第3区長	茂木 新司
		桐生市社会福祉協議会 常務理事	高松 富雄
		きりゅう市民活動推進ネットワーク 代表	近藤 圭子
		NPO法人キッズバレイ 代表理事	星野 麻実
		桐生市医師会 理事	太田 裕穂
		桐生青年会議所 理事長	朝倉 康行
		桐生市婦人団体連絡協議会 会員	田中 洋子
		2015年の公共交通をつくる会 会長	佐羽 宏之
(欠席者)		桐生織物協同組合 共販部係長	品川 悦子
		群馬大学理工学部 教授	板橋 英之
		桐生市PTA連絡協議会 副会長	長 由紀子
		桐生市環境審議会 会長	赤岩 英夫
【桐生市】		桐生市長	亀山 豊文
		桐生市副市長	鳥井 英雄
(事務局)		桐生市総合政策部企画課長	和佐田 直樹
		桐生市総合政策部企画課人口対策室長	六本木 和敏
		桐生市総合政策部企画課環境都市推進係長	金子 英雄
		桐生市総合政策部企画課人口対策室主任	竹ヶ原 大輔

【傍聴者】 1 名

【報道機関】 2 社

4. 議 題

1 開会

2 あいさつ

3 議題

(1) (仮称) 桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略 (案) について

・ 前回資料からの修正点

4 その他

5 閉会

5. 議事の概要

(開始：午後 6 時 30 分)

1 開会

〈和佐田企画課長〉

本日は、4 名の委員より御欠席の連絡をいただいているが、本日の出席委員数は過半数に達していることから、委員会が成立していることを報告する。

2 あいさつ

〈亀山市長〉

今日は第 4 回桐生市総合戦略推進委員会ということで、委員長や副委員長を始め、委員の皆様にはお忙しい中御出席をいただき大変ありがとうございます。人口ビジョン・総合戦略も、最終案の作成に近づいてきたかなと思う。何としてでも、この地方創生を活かして桐生市のまちづくり、また元気な桐生というものをつくっていかなければならない。思いというのは委員長、副委員長にも伝えているので、ぜひとも皆様方のお知恵やいろいろな御意見を拝借しながら、素晴らしいものができるよう心からお願いをし、開会にあたっての挨拶とさせていただきます。

(挨拶後、公務のため市長退席)

〈委員長〉

第 4 回ということで、そろそろ何とか決着したいと思っている。

前回の挨拶でも、11 月 5、6 日で行った私どものプロジェクト「地域が元気になる脱温暖化全国大会 in 桐生」が非常に高く評価されたというのは報告したが、実はそれを受けてその後行われたガバナンスボードでも大変評価が高くて、桐生は凄い資源を持っているということを評価された。

全国大会の午前中のセッションでお話させていただいたが、その中で「本物の贅沢」という表現を使わせてもらった。これが本当の上位概念としてふさわしいのではないかと。桐生というのはそれが追求できる資源を十分に持っているところだからこそ、外から来た人が魅力を感じられたのではないと思う。

ガバナンスボードの各先生からも、これからは桐生1市、日本1国でなく、世界戦略を考えるように。この桐生を追いかけるような、そういう魅力ある町となるポテンシャルが、この桐生の根本にはある。今回の総合戦略もそれくらいの気概を持って、「本物の贅沢」ができるまち桐生を導いていける案を作っていきたいと思う。

今まで委員の皆様は総花的で何が特徴かわからないと御指摘をいただいているが、今回はぜひそこを絞り込んでいきたい。桐生の持っている魅力を活かしながら、今の桐生の現実的な問題点も解決していく、そういう戦略にしていきたいと思っている。本日、もし決着できなければ、来年もう一度この会議をやってもいいと思っているので、ぜひ忌憚のない御意見をいただいて、本当に魅力あるまち、それは桐生のためだけでなく、世界のためにも、魅力あるまちづくりに御協力をお願いしたい。

3 議題

委員長が議事を進行。

(1) (仮称) 桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について

〈事務局説明〉

事務局より、資料1「(仮称) 桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)」について説明。

〈委員長〉

前回の資料に比べ見やすくなったと思う。基本目標の中でやろうとしていることが多く入っているが、その中で重点施策という表現で、キノピーのマークを付けた8つの項目がある。今回の総合戦略の重点施策として、もっと前のほうのページに出したい。

それと重要な視点、キーワードというのがあるが、この資料だとキーワードの文字が小さいと思う。1ページ使って、重要な視点とその下に重点施策を配置したページが前のほうにあれば、明快にまずはここからやるんだという方向性がわかると思う。今の説明の中で、案として問われている重点施策のあたりに絞って、今日は議論をしていきたい。また、別の部分を重点施策にすべきだということがあれば伺いたいし、もっと絞り込んだほうがいいのかという意見もあると思われる。優先順位なども含め、議論をお願いしたい。

〈委員〉

桐生市が将来どういうまちになると良いなという、ビジョンやイメージといったものを統一していただくと思う。もともと桐生というまちには歴史があって町並みが美しい。人口を増やすには外から入ってくるしかないが、私も一度外に出た人間だが、桐生の町並みの美しさはここに住みたいと思わせる。

企業が一杯あるから来ようというのではない。企業数というなら近くのまちに多くあり、車を使えばすぐ行けるので、住むところは環境のいい桐生にしたい、そう思えるようなまちだと思う。そのためのキーワードとして、桐生がどういうまちかわかるようなものがあると、そこに伴って必要なものが出てくるのではないかな。

この案では、一般的なことしか見えない。雇用の創出等について書いてあるが、限られた予算の中で実現できるのか。もっと絞り込んでいって、ここだけは絶対負けないぞというところを明確にする。桐生はもともと歴史がある町であり、その部分は絶対負けないところである。前橋や高崎と比べてもすご

いところではないか。若い世代がどこに住もうか考えたとき、交通の便は車で解消して仕事は別の町に行くが、住むのは近くに山があり水があり町並みの美しい桐生にしたいと思われるよう、その部分をメインにしてそれに対することを考えていけばいいと思う。

限られた予算の中で、これだけ多くのことをやろうとするとかなり手薄になるのではないだろうか

〈委員長〉

今回の地方創生の予算では、この中にある 1、2 件程度の取組しか実現できないと思われる。戦略として、今後やっていくことを出しておく、というのが今回の提案書である。長期的な戦略として重点施策を 8 件挙げている。これもすぐにやるには多すぎるので、優先順位をつけて絞り込みたい。

重要な視点の中の 1 行目が「歴史、伝統・文化、自然といった桐生の貴重な資源の利活用」とあるが、今お話いただいた内容はこれに含まれている。これを最大限に利用したまちづくり、そういう言い方をすると皆さんわかってくるのではないか。一番目に掲げているので、これは共通の認識だと思われるが、キーワードが多すぎたのかもしれない。

理念として、こういうものを使った桐生独特のまちづくり、そのためにどういう重点施策があるか。優先順位をつけたら 1、2 件しかできないので、それをキーワードに掲げたい。そこを絞り込むためにも皆さんの御意見を伺いたい。

〈委員〉

キーワードはかなり集約できるのではないか。空き家・空き店舗を活用した中心市街地の再生、環境先進都市将来構想とコンパクトシティ、この辺は同じ目標として括することができるのではないかと思う。群馬大学理工学部との連携、広域的な視点かつ市民を始め産官学金労言等が一体となったオール桐生での取組と 3 つぐらいに絞ってはどうか。

〈委員長〉

皆さんの御意見を尊重して事務局で入れているが、煮詰めて 3、4 点に絞ったほうがいいかもしれない。

〈委員〉

例えば真ん中の 3 つに対しては、コンパクトシティを前面に打ち出し、それを達成するために空き家・空き店舗等の活用、中心市街地の再生。それから環境先進都市へ向けての取組ということがその下に来てもいい。目的は同じなので。

〈委員長〉

非常にいい御意見で、ここを考え直す必要がある。今のようなことを、視点を整理してわかりやすくしていきたい。

桐生の目指す将来像をまずは掲げて、それに対してどういう施策をとるか。今回の地方創生の予算がどう配分されるか、具体的にまだわかっていない。重点施策をこちらで決めても、配る方とのマッチングがうまくいかなければ残念なことになるので、候補は多く持っていたほうがいいかもしれない。あまり厳格に決めてしまつては、多少問題が生じるかもしれない。

〈委員〉

森林資源の活用はいいことだが、全国的には多くみられる。森林の活用としてはどうか。登山などの環境を活かしたレクリエーションなどのほうが、アピールできるのではないかと思う。

〈委員〉

桐生の特徴である水と緑といった自然資源を活用することは大変大きなテーマだと思う。実は先日、関東一の製材ライン、地域材加工センターの竣工ということで渡良瀬森林組合がやられた。みどり市主体で桐生も出資しているが、木材を活用できる仕組みが地域でできた。森林資源の活用ということでは、これを上手に活用し一緒にやっていけば対応できるのではないかと思っている。水は別の方法で、梅田浄水場のところに水をボトルにつめる設備を作ることなので、とりあえずは一つ形ができたので、一応対応はできたのかなと思っている。

〈委員〉

重点施策で、森林資源から「資源」を取ってしまうと森林の基盤整備ということになるが、森林は個人の方が持っている。当方の組合員はそういう森林の所有者を募った組合であり、所有者にいくらかでも還元しなくてはならない。林業はかなり低迷しているが、県では森林・林業の再生と森林環境の保全の二本柱を立てた「森林・林業基本計画」という計画を立てていて、森林県から林業県へと施策を進めていることもあり、森林資源の「資源」はぜひ入れていただきたい。

〈委員〉

資源がいいとか悪いとかでなく、日本中どこからでも「資源」というのは出てくるのではないかと思った。森林だけのほうが広くみられるのではないかと感じた。

〈委員〉

日本列島は約7割が森林である。山を抱えているところは、森林資源を使うことが地方創生につながるということは間違いないので、「資源」はしっかり入れておいたほうがいい。それをどういうアプローチでやるかというのが、それぞれの地域の知恵比べだと思う。

〈委員長〉

森林資源の活用はどこからでも出てくるので、よほど方法論で特徴がなければ、今回の予算でこれを通すのは難しいかもしれない。ただ、桐生としての全体の方向性を示すという意味では出すべきであり、それが今回の国の予算にマッチするかどうかは、今後の交渉次第だと思われる。

〈委員〉

森林組合は渡良瀬森林組合、桐生森林組合に分かれていて、事業を一緒にやる上ではどちらが主かというものがあるが、両者が協力してやらなければならないテーマだと思う。

森林資源は材として使うことと、チップやペレットをエネルギーとして使うことも重視されてきている。コスト的には円安の問題もあり、決して外国の材に引けをとらない。切り出す能力や体制が安く、採算が合わなかったために放置されてきたが、その体制を行政が支援し地域が構築していけば、環境は

そういう方向には向かっている。今まで放置されてきたが、森林活用は十分にいける。その一つの突破口が製材センターである。

〈委員〉

日本全土が森林に覆われているなかで、桐生の森林資源のメリットとして、首都圏に供給するのに非常に近いという部分を盛り込んだらどうか。北海道から運ぶのと、ここから運ぶのでは輸送コストが違う。そういったことも視点として必要ではないだろうか。

〈委員〉

今言われた首都圏から 100 キロ圏というのは、森林資源に限らず農産物、機械金属業界にとっても非常に良い地の利であり、森林に限らず全てにおいて、桐生だけでなく群馬、栃木、茨城の北関東三県は地の利を活かせると考えている。

例えば桐生の機械工業連合会と東京大田区の機械工業連合会と BCP が締結できたのも、何かあったときに 2 時間程度で輸送ができるという距離感が評価された面もあったと考えている。大変大きなキーワードである。

〈委員〉

森を守るのは水だと思う。桐生から首都圏へ水は流れているので、森を守っておいしい水を東京まで運ぶ。最近水も強力な資源となってきたので、水という言葉を入れていくといいのではないかと。

それともう一点、中心商店街の位置付けは、どのあたりを中心商店街として捉えるべきか。

〈委員〉

中心商店街というよりは、中心市街地をどこで考えるか。川の向こうは別として、渡良瀬川のこちら側の旧市街地では、本町 5 丁目交差点付近がやはり中心市街地であるべきだと考えている。八木節まつりの混雑具合を見ても、10 人のうち 9 人か 10 人は、あのあたりが中心市街地であると思う。ただし、新里や黒保根に対しては、新里は新里駅の周辺、黒保根は水沼駅の周辺がそれぞれ中心市街地だと思う。桐生と新里をつなぐのは上毛電鉄、黒保根はわたらせ渓谷鐵道で桐生駅まで来てもらう。残念ながら中にみどり市が入っているため、おりひめバスが行き来できない状況ではあるが、せめて既存の路線を使って、桐生と合併した新里、黒保根の住民に対して配慮をする必要があると考えている。

〈委員長〉

中心市街地という表現の方がよいと思われる。最初にいただいた御意見にあったように、単に中心市街地の活性化ではなく、桐生の良さ、歴史文化を活かして活性化していくことによって、桐生の独自性が出てくる。どこのまちでも中心商店街がだめになって、それを再生したいといったときに、再生の仕方そのまちの歴史、伝統、文化を活かしていくことで住みやすいまちを作っていくという施策にすると、独特のものが生まれてくる。今の森林資源や水の場合は、桐生の持っている自然の資源を活かすというのは誰もがわかるが、そのほかの場合も全て桐生の何かの資源と結びつけて、桐生独自の施策としていく。例えば在宅就業事業も何か桐生らしいものに結び付けていけばいいと思っている。全てのところがキーワードとして、最初に掲げたものと連携していくと、桐生らしいものになるのではないかと思います。

っている。

〈委員〉

RESAS で人の動きをみると、駅から繋がる場所が人口的には一番動くところになっている。急にそこに人が集まるということもないので、どこからつながるか、人がどう動くのか分析しながら作っていかなければならない。

〈委員〉

周りにいろいろな都市があるが、そこと同じ土俵に乗る必要もない。ブルー・オーシャン戦略ではないが、桐生は住むまち、学ぶまち、過去の歴史から見ても新産業を創生するまちという位置付けで、それを支える自然環境と多くの歴史がある。過去にも、当時としては最先端かつ日本の屋台骨を支えた繊維産業が栄えた。桐生は住んで学んで新しいものを生み出す場所で、既存の産業で働くのであれば太田市や伊勢崎市に多くの会社がある。その中で環境先進都市として桐生地域がエネルギー的に独立して、エネルギーを購入するための自然流出が多くならないように、自然流出のミニマム化を図れるような地域にしていくことで、バイオマスのようなものが必要になってくると思われる。

〈委員長〉

非常に明快地整理していただいた。桐生の持っている資源を、こういったところに活用して住みやすいまちにしていかなければならない。人口 12 万人のまちで、これだけの教育機関を持っているところは多くない。学ぶという点では、桐生はかなり特徴がある。教育は人を呼び込む魅力にもなっている。そういったものを使うと創造的な仕事ができる。それに今の重点施策が本当に反映しているかどうか。

〈委員〉

3 ページのキーワードの一つ目に、歴史、伝統・文化、自然「といった」となっているが、イメージが弱くなるので、豊かな自然、山紫水明の自然を「有する」という言葉がより強く感じるのではないかな

〈委員長〉

キーワードは先ほどから御指摘をいただいているので、より魅力的なキーワードにするよう考え直したい。これが桐生の求めている将来像になるので非常に重要なところである。

〈委員〉

14～15 ページの基本目標 2「移住・定住の促進」で、黒保根、川内、ひまわり団地が具体的に出てきているが、人口の移住・定住の促進について、漠然的に市全体に促進するのではなく、中心市街地に促進していくという視点があるべきだと思う。これが環境先進都市につながると思うし、諸々のところに関係してくる。

それから、16 ページに「本市最大の観光イベントである桐生八木節まつり」とある。これに対して異論はないと思うが、歴史・伝統をキーワードとしているのであれば、桐生祇園祭をここに盛り込んでいただきたい。360 年以上続いている地元の祭りなくして、歴史も伝統もない。キーワードと違ってきてしまう。新しいイベントも結構だが、今まで桐生の人が続けてきたもの、伝統的なお祭りを無視するの

はいかがなものかと思う。

〈委員〉

八木節まつり・祇園祭と並列にしてはどうか。二本柱である。

〈鳥井副市長〉

八木節まつりと祇園祭については、以前は別々の開催だったものが、変遷をしながら最後は一つにまとまった。

先ほど御発言いただいた中心市街地への居住人口の誘導については、22 ページの「立地適正化計画策定・推進事業」に盛り込まれている。中心市街地だけではないが、インフラが完備されたところに居住機能を誘導するなどの記述がされている。

13 ページの「森林資源の活用による林業の活性化」には、重点施策として二つの事業が入っている。先ほど話に出てきた加工所の竣工について、合板の材料になるものを製材するというのがメインの施設になっており、高品質の材木は選別をして出荷をしないと、その加工センターに持っていくと安く処理せざるを得なくなってしまう。その加工所に持っていくべき木材と、高価格で取引ができるものを選別し、供給ができるような施設を地域内に作れば、地域内の木材を活用できる環境が整う。森林資源の流通の基盤整備事業は、木材を選別しストックヤード市場併設で流通環境を整え、地域の材を価値相応に流通できるようにし、そういうふうにすれば森林資源の活用が高まるのではないかという意味合いで記述されているので、念頭においていただくとありがたい。

〈委員〉

22 ページ「地域間連携に向けた取組」のところで、東武鉄道は首都圏だけではなく、東毛地域の隣町とのネットワークを形成する重要な路線となる。都市間のシャトル輸送を考えておくと、桐生と首都圏とを直結した路線というだけでなく、例えば太田、伊勢崎、足利、その間にあるところ含め、桐生市民がそのまちの施設を使ううえで、有効な輸送手段になるのではないかと思う。

〈委員長〉

ただ首都圏と直結した路線というだけでなく、東武鉄道もそういう役目を担っている。当然両毛線にも同じことが言える。桐生には4本も鉄道があり珍しい。これも桐生ならではのことであるので、そのあたりをきちんと活用できるようにしたい。

〈委員〉

中心市街地再開発について、桐生というまちを語るとしたら、中心市街地は両毛線の駅から本町5丁目を中心になる。何をやるにしても、限られた財源や行政だけの力では限界がある。民間の力の活用をしっかりと組み込んでいかないと、なかなか現実的に発展した形に持っていけないのではないかな。資金、ノウハウもそうだし、できれば株式会社を立ち上げたりファンドを組むといった、そういった手法がアプローチの段階で必要になってくると思う。この趣旨にそれを入れるかどうかはわからないが、国に訴えるときに、限られた財源でどうこうというより、民間の資金や活力を活用して進めていきますよと言ったほうが、訴える力も強くなると思う。そのような意見も入れていただけると個人的にはいい

のかなと思う。

〈委員長〉

そういう意味では、北関東産官学研究会は非常に先進的な取組だったと思う。このあたりは桐生独特の取組だった。金融機関を含め、連携を密にする施策がこれからは必要になってくる。

〈委員〉

人口ビジョンをみると平成 26 年～30 年、これから 4 年～5 年の間に、15 歳～64 歳の人口が約 5 千人減ってしまう。この世代にとって魅力的なまち、住みたいと思うまちにしていかなければ、この世代はもっと減る。この世代に魅力的なものとは何か。コミュニティの中心は学ぶ場所、学校である。例えば小学校単位でお祭りや組織があるが、小学校がなくなれば小学生を持つ家族はそこに住めなくなり、別のところに移らなければならない。逆に学校が魅力的なものであれば、そこに住みたいと思う子育て世代が増えるのではないかなと思う。

総合戦略の中では、教育の部分が、今までやってきたことをさらに力を入れてやっていこうとしているように思える。これから子どもたちのことを考えると、何を学ぶかも大切だが、どのように学ぶかも重要になってくる。自分の頭で考えて、想像力を発揮していくという教育が必要ではないか。今よく言われているアクティブラーニング。生徒たちが主体的に考え、公式を先生に教えてもらって使えるようになるのではなく、どうしてこうなるのか自分で考えて公式を導き出すような学び方が重要だと言われている。何を学ぶかと同時に、どのように学び、考え、創造できるようになるのかが出せる、そういう学びができる場所は子育て世代、子どもたちにとって魅力的であり、未来を担っていく世代にとって必要となる能力であると思う。パブリックコメントでも教育に関する要望は出ているが、そういったこともこういう場で共有できるといいのではないかなと思う。

〈委員長〉

学ぶところ、学べるところ。これは大きなキーワードである。子育て世代にとってきちんとした教育ができるかは非常に重要なものである。この前のアンケートでは、希望する子どもの数は 3 人という回答もあったが、実際はそんなに子どもを持ってない。その原因は教育費によるところが大きい。もし、桐生だったら教育費が安く、大学までいけるといったシステムがあれば子どもを持つことができる。関係したところで、群馬大学理工学部の奨学金制度というのがある。桐生で子どもを育てたら大学までほとんど教育費がかからない。そうなったら相当人が来ると思う。桐生にいれば奨学金で全部まかなえると、かなり魅力的になる。独特な過去や、いろいろな資源を持ったまちなのでできると思う。今やっている未来創生塾はそういったところを視点にしてやっているのだから、ここから世界のリーダーを最終的に出すことができるのではないかなというポテンシャルの高いまちで、学ぶということにもっと力を入れてもいいのではないかな。

本来住むのにいいまちだが、それが住みにくい状況になっているのではないかな。これだけの資源があるので、住みやすくするための施策が必要である。中心市街地の取組もただ住みやすいだけではなく、桐生独自のもっと良い住環境を作っていく方向に開発を進めていくということも大切だと思う。どこにでもあるような町を作っても、どうにもならない。

〈委員〉

17～18 ページの「子育て支援」について、一意見として聞いていただきたい。

「第3子以降の各種無料化事業」については、他の市町村でもやっているところがある。桐生はあえて第2子に対して、無料化とまではいかなくても半額にするなど、プラスアルファを出したらどうか。

〈鳥井副市長〉

実際に第3子以降の制度を作ったときに検討をしているが、二人のお子さんをお持ちの家庭は多く、半額といっても膨大な経費になる。そういうことを踏まえると、なかなかすぐには難しい。所得制限等を踏まえ徐々にやっていくことも一つの考え方にはなと思うが、実際問題として財源との兼ね合いの話になる。第2子からそういう事業を進めていけば、非常に注目も浴びるし、子育て世代にとって大きな後押しとなる。そのあたりは念頭に置きながら人口減少対策を始めているが、その段階で協議を始め、現時点でも協議をしているということで御理解をいただければと思う。具体的なことをここで記述できるほど、具現化の可能性に近づいていないのが現状である。

〈委員〉

低所得者層の家庭に対して、放課後学習を無料で提供するということが発表された市もある。そのような取組もあってしかるべきかなと思う。

〈委員長〉

第2子でも所得制限を加減し調整していけば、できないことはないかもしれない。例え大きな財源が必要だとしても、市民がそれでいくんだという合意があれば、他を削ってもいいと思う。限られた予算なので、当然どこか削らなければならない。

〈委員〉

桐生市は人口減少や少子化と言われて久しいし、桐生市民もその認識があると思う。ある程度の理解は得られると思う。

〈委員長〉

今後も検討をぜひ続けていただきたい。総合戦略のどこかに、漠然とした感じで入ってもいいかもしれない。今の桐生にとって大きな施策である。

〈鳥井副市長〉

この議論の元は、より多くの若者に定住してもらうまちになることが今の桐生に一番必要なことで、先ほどおっしゃったように持続可能なまちを作るには、若者に住んでもらわないとそういうまちにはなり得ない。若者が桐生に定住するためには、住環境であったり、雇用、教育環境というような部分で他にない、あるいは桐生の特性を活かした優れた施策、こういうものを結集していくことが基本路線となる。

〈委員長〉

「未来創生塾」を立ち上げたが、その前の段階で「工学クラブ」というのを立ち上げている。小・中・高・大学が繋がった組織で、桐生ならそれができる。小学校から大学の先生のコメントを貰えるといった、そういう繋がりのために未来創生塾をやっているが、独特の学びの場になってくる。何かやろうとしたときに、トップにいる人達とすぐに話ができるというところが魅力的だと思うが、桐生はそれができる。そういうところも盛り込んでいきたいと思う。

〈委員〉

最近、他県でまちづくり会社を作るという話が進んでいるところがある。行政がしっかりした目標をもってやることになれば、産業界もまちづくり会社に対する出資やファンドを作ることに對してやぶさかではないので、はっきりとした意思表示をしていただきたい。行政だけに全てを頼るわけにはいらないが、例えば先ほどの中心市街地のことで、空き店舗を埋めたいということであれば創業支援も含め、産業界がやらなければいけないことも多く出てくると思う。産学官金の形で、金融機関からの協力も得られると思うので、お願いをしたい。

23 ページの「地域公共交通体系改善事業」で、鉄道を使ってというお話もあったが、福祉バスとしての意味合いが強い。おりひめバスを鉄道とリンクして一般の方、観光客の方々にとっても、もっと使いやすいバスにできたらいいと思う。他の自治体で、移住促進のために月 6 千円程度のバス代を無料にするという取組で人を集めているまちがあった。バスは動かせば、乗っても乗らなくても経費は同じだけかかる。そういう補助であれば実質持ち出しはないと思うので、そういったことも活用しながら移住促進、人材誘致にも活用できる手段として検討していただきたい。

〈委員〉

こういうことがあり得るかどうかかわからないが、桐生に住んでも太田に住んでも伊勢崎に住んでも、住む市民自体のお金の使い方が同じだったら、どこに住んでも同じだと思う。一生懸命働かないとお金が足りないところから脱却できない。要するに、ワークライフバランスを変えないと子どもも増えないし、生活も楽にならないと思う。在宅での就労事業を重点施策に挙げているが、桐生に住むからには子どもを置いてあくせく働きに行かなくても生活ができるような生活パターンをここに住む人が選択するとか、それを選択する人がここに来るようにしないと、結局保育所に預けるとなるとそのための費用もかかり、また働くことになる。子どもを育てるといのはすごく重要なことなので、ワークライフバランスを変えるということに関して、価値を見出すような人を集める旗印が必要なのかと思う。

先ほどまちづくり会社の話があったが、昔だと阪急や東急のような鉄道会社がやっていた。現在鉄道会社が赤字で重荷のような捉えられ方をしているが、思い切ってそういう会社をまちづくり会社にして、その中で鉄道やバスを一環で運用すると、まちの中の移動やレイアウトが変わってくるのではないかなと思う。

〈委員〉

人が暮らしていく中で大事なことは、生活のための所得と暮らしの二つ。先ほどから意見が出ているように、ここは暮らしを大切にしたいまちではないか。

所得は外から得てもいい。住みたい魅力は子育てがしやすい、自然環境が良い、生活コストがかから

ないなどいろいろある。生活しやすさの中には細分化された問題があると思うが、それをどう構築していくかというのが暮らしよさではないか。

新しい仕事を創出しながら、暮らしよさをもっと向上させていく。そういう二つの両輪があって、住むうえで持続可能なまちになると思う。それとお金がないから出来ないんじゃないかという議論があったが、まちづくりの方向をしっかり持って、事業としてどこから着手するのか選択していかなければならない。段階を踏まえながらやる必要があると思う。

〈委員〉

19 ページの西町インターナショナルスクールとの交流事業は、黒保根だけでなく市全体でできないのか。全市でできたらすごく魅力的な事業だと思う。

〈鳥井副市長〉

少しずつ拡大の方向にしていきたいと思っているが、歴史的なものがある。黒保根村の時代に、西町インターナショナルスクールの創設者とライシャワーハルさんの関係があって始まった事業であり、都心の学校が黒保根の山野を活用した教育と、田舎の子どもたちとの交流の場として始めているので、そういう面ではそこからとってしまうわけにはいかない事情がある。

インターナショナルスクールとの交流事業、あるいは英語教育に特化した形で、昔で言えば越境入学、山の学校の環境のいいところで勉強をしようとする人を呼び込もうということもコンセプトの一つとしてはある。しかしながら、現実問題として黒保根の小・中学校の交流できる児童生徒の数が非常に少ないので、西町から要請があるだけの子どもたちが集められない状況が時としてある。そういう中で、黒保根以外の子どもたちを順に参加させていただいて、実績作りをしていく中で、徐々に桐生市全体との交流につなげていきたいというふうに考えている。

〈委員〉

子育てにとって、教育が一番重要なことだという意見は皆さん一致していると思うが、桐生市においては県立高校がいずれ2校なくなるという中で、教育自体の地盤沈下ということも危ぶまれている。何か特色のあることを打ち出すべきではないかと考える。最近だと、英語教育に関しては太田市の国際アカデミーが注目され、桐生からも小学生の段階から太田市に通われているお子さんがいる。そういう意味では交流人口が流出している。さらに中高一貫教育も、良いか悪いかという議論はおいておき、伊勢崎市の市立学校や太田市でも市立の学校が始めている。そういう動きが活発化するなかで、なんとなく桐生は見劣りしている。もし公立でできないのであれば、市内の私学2校との連携を考えていくことも必要ではないかと思う。

〈委員長〉

12月2日に未来創生として、黒保根小・北小連携のテレビ授業を行った。西町インターナショナルスクールとの交流事業をやるにあたって、黒保根では人数的にも難しい問題が出てきているので、未来創生塾でその間を取り持つということで行った。特に、黒保根小は今年からテレビ授業の設備を導入しており、今回初めて使わせていただいた。今の設備で20箇所同時に連携できるが、桐生の小学校は全部で17校なので、同時に全校できる。それを西町インターナショナルスクールと結びつけながらの授

業にしていきたいと始めている。ただ先ほどおっしゃったように、この西町は黒保根が中心でないといけない。西町がいいからといって、英語教育のために全体が取り込んでしまうと黒保根に申し訳ないので、そこは今までの歴史的な経緯を重要視しながら、全体に広げていくのは大変いいことだと思う。我々も実践的に取り組んでいるので、市でも考えていただきたい。そうすると桐生のレベルアップにもつながると思われる。

今日は皆様からも中身、キーワードに対して修正できそうな御意見をたくさんいただいた。重点施策も、中身を桐生らしいもの書き換えていくといったことができると思う。

とりあえずの重点施策が8件、これでいいかどうかということと、優先順位を付けていくことになる。今ここでやるにはなかなか難しいと思われるので、もう一度整理して、やはり1月に桐生の目指すまちのキーワードの下に重点施策を、桐生ならではのものが織り込まれるようなものに文言を変えていきたい。本日皆さんから貴重な御意見を多くいただいた。それをまとめて1月に決めていきたいと考えているが、いかがか。

【委員了承】

副委員長、事務局と相談しながら、何とか次の委員会で最終案として皆さんにお示しできるように、私どものほうにいくらか任せていただいて、作らせていただきたいと思う。

4 その他

〈事務局〉

○第5回推進委員会の日程については、調整の上、連絡する。

5 閉会

〈和佐田企画課長〉

(終了：午後8時)